

中国日本商会

みつま

三瀧先生の

「ナルホド中国、ナットク中国」



三瀧コラム 中国「津津有味」-34

中国や中国人を理解する上でのキーワードの一つが「スケルトン」でしょう。その代表格が「スケルトン住宅」で、中国の住宅事情を理解する上では欠かせません。「スケルトン住宅」とはご存知のように、間仕切りや更なる内装がまだきちんとされていないマンションなどを指します。日本なら建売マンションとなれば、間仕切りはもちろん、トイレの便器やシステムキッチンなどかなりがすでに整備されていて、それから備え付けるものといえ、カーテンやテーブル、ソファ、家電類などといったものになります。

したがって、仮に泥棒があるマンションに忍び込んでその間取りが解れば、他の家の間取りもほぼ同じで察しが付く、というのが大半でしょう。しかし中国は違います。建売マンションは原則としてスケルトン。間仕切りされていない物件が多々あります。内装の大部分はさらに内装業者に頼んでやってもらいます。勿論、それは面倒というより、自分の家族のニーズにより適合した家を作ることができるのですから、メリットも大きいし、楽しみでもあります。というわけで、書店に行くと内装コーナーがあつて、関連本がぎっしり。日本の書店で内装関係の本はあつても、専用コーナーはまずお目にかかりません。ただ日本の場合、家を買う費用といつても、その後の内装にかかる費用は家そのものの費用に比べれば、一般的には大した額にはなりません、中国では5割以上も珍しくありません。

勿論、マイナス面もあります。施工のしっかりした信頼できる内装業者を探し当てるのがなかなか大変で、施工中どうやって監視するのも頭痛のタネになっています。

この「スケルトン」という手法は、実は建築などハードの側面に限らず、様々な計画やプロジェクトへの取り組みにも適用されます。中国人の基本的な思考パターン、行動パターンといつても過言ではありません。中国人の言う“统筹”とはまさにそう言う事で、ただ「計画を立てる」という単純な意味合いだけではありません。あるプロジェクトに取りかかる時、まず、その基本コンセプトを一定のスローガンにして提示します。具体的な中身はそれからです。次に、プロジェクトを実施する上での法律法規の整備は後回しにして（勿論、詳細な実施細則などはどこにもありません）、とにかく、各部門や事業単位・組織に自由な発想で思い切った案を提示させ試行させる、その上で、評価すべき取り組みについてはこれをサポートする法律法規を、間違つたあるいは不正な取組についてはこれを取り締まる法律法規を整備し、それらを総括する形でさらに具体的にコンセプトを整えます。

ですから、政府が新たなビッグプロジェクトに取り掛かるときは、基本コンセプトや各課題の「間仕切り」、項目の列挙、現時点で克服すべき問題点の整備、様々な取り組みモデ

中国日本商会

みつま

三渚先生の 「ナルホド中国、ナットク中国」



ルの例示はあっても、それはあくまでも「スケルトン」の提示であり、様々な試みについての具体的な「内装」の提示でも縛りでもありません。言葉を変えれば、思い切った良い「内装」であれば、それに合わせて後付けで容認するスタイルです。こういったやり方が日本には無いが故に、「スケルトン」から「内装」に至る間の中国の様々な試みとその間の百花繚乱を単なる「無秩序な混乱」として捉え否定してしまうことが日本側によくあるのです。その最たる例が、自由貿易区などへの取り組みでしょう。それは次回に。